

2009年3月27日

武蔵野学院大学 模擬授業

アニメに見る異文化理解



武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学
教授

博士（英文学） 佐々木 隆

1 アニメの社会的評価

平成 9 年 文化庁 文化政策推進会議／マルチメディア映像・音響芸術懇談会「21世紀に向けた新しいメディア芸術の振興について」

*技術革新とともに、メディアの多様化が進み、映画、マンガ、アニメーション、コンピュータグラフィックス、ゲームソフト等、様々な映像、音響芸術（以下「メディア芸術」という。）が誕生してきた。これらのメディア芸術は、21世紀の我が国芸術の中心としての一つとして発展していくことが期待されている。

平成 9 年 （第 1 回）文化庁メディア芸術祭

平成 9 年 TVシリーズ『ポケットモンスター』放映開始

平成 9 年 宮崎駿監督『もののけ姫』

平成 9 年 庵野秀明監督『新世紀エヴァンゲリオン』（2部構成）

平成10年 『中学校学習指導要領』

*教科「美術」に「表したい内容を漫画やイラストレーション、写真・ビデオ・コンピュータ等、映像メディアなどで表現すること」と触れている。

平成10年 TVシリーズ『遊☆戯☆王』放映開始

平成10年 日本アニメーション学会設立

平成10年 宮崎駿監督『もののけ姫』、*Princess Mononoke*のタイトルで全米公開。

平成12年 京都精華大学芸術学部マンガ学科開設（日本で初めてのマンガ学科）

平成12年 『高等学校学習指導要領解説 情報編』

* 「図形と画像処理」で「アニメーションとシュミレーション」に触れている。⁽¹⁶⁾

平成13年 京都精華大学表現研究機構 マンガ文化研究所開設

平成13年 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』

平成13年 りんたろう監督『メトロポリス』

平成13年 日本マンガ学会設立

平成13年 文化芸術振興基本法

（メディア芸術の振興）

第九条 国は、映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術（以下「メディア芸術」という。）の振興を図るため、メディア芸術の製作、上映等への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

平成14年 文化庁政策課 文化芸術の振興に関する基本的な方針

* 「第2 文化芸術の振興に関する基本的施策」の「(2) メディア芸術の振興」の中で「漫画、アニメーションなどの海外発信及び

国内外の映画祭等への出品等を推進」が謳われている。

平成14年 真島理一郎『スキージャンプ・ラージヒル』

平成14年 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』（英語タイトル *The Spirited Away*）

*ベルリン国際映画祭金熊賞

平成14年 村田朋泰『朱の路』

*広島国際アニメーション映画祭優秀賞

平成14年 東京工芸大学芸術学部アニメーション学科開設（日本ではじめてのアニメーション学科）

平成15年 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』

*米アカデミー賞長編アニメ賞受賞

平成15年 山村浩二監督『頭山』

*アヌシー・クリスタル、グランプリ受賞

平成15年 文化庁 映画振興に関する懇談会「これからの日本映画の振興について」（提言）

平成16年 押井守監督『Innocence』

*カンヌ国際映画祭コンペティション出品品

平成16年 山村浩二監督『頭山』

*ザグレブ国際アニメーション映画祭グランプリ

平成16年 宮崎駿監督『ハウルの動く城』

*9月、ヴェネチア国際映画祭で、技術貢献賞

- * 11月、日本で一般公開
- 平成18年 京都精華大学マンガ学部開設（日本で最初のマンガ学部）
- * 学士（芸術）
- 平成 19 年 国際漫画賞創設（外務省）
- 平成 20 年 加藤久仁生監督『つみきのいえ』（日本）上映時間 1 2 分
- * 原題：LA MAISON EN PETITS CUBES
- 平成 20 年 加藤久仁生監督『つみきのいえ』
- * アヌシー・クリスタル、グランプリ受賞
- 平成 21 年 加藤久仁生監督『つみきのいえ』
- * 米アカデミー賞短編アニメ賞受賞



2 『つみきのいえ』を考える

- 1) 世界はナレーションなしの映像をどのようにとらえたのか
- 2) タイトルにもなっている『つみきのいえ』は何を象徴しているのか
- 3) 「水」は何を象徴しているのか
- 4) 表現方法として、どこが評価されたのか
- 5) あなたはこの作品をみてどう思うか？

* 模擬授業では時間の関係から意見交換まで出来ません。まず、皆さんで考えて見て下さい。様々な評論家？の方がいろいろ言っているようですが、一番重要なのは、自分自身がどう感じ、何を思ったかです。個人的意見として今回の作品が受け入れられないとしたら、何故この作品が米・アカデミー賞短編アニメ賞受賞といった快挙がおきたのか、アメリカ人は何を評価したのかを考えてみましょう。

* 意見交換を望む人は

ssk2000takashi@yahoo.co.jpまでメールを下さい。佐々木のメールアドレスです。件名は「模擬授業 自分の氏名」でお願い致します。迷惑メールとの振り分けを行っております。

* なお、私、佐々木についてはHP「佐々木隆研究室」(<http://www.ssk.econfn.com>)をご覧ください。佐々木の経歴、教育研究業績、武蔵野学院大学大学院、武蔵野学院大学等の授業の情報を掲載しております。しかし、現在は年度末ということから、授業の情報はほとんどが準備中という状態が多くなっております。

* 検索については Yahoo Japan!や Google ではかなり上位で検索できますので、すぐに見つかると思います。是非ご利用下さい。

* 「オタク」と「学者」は紙ひとえです。研究対象として体系化できるかどうか、実証できるかどうか、客観的な事実の積み上げができるかどうか大きなポイントです。あとは論文として表現できるかどうか。

発行者 佐々木 隆
発行日 2009年3月27日
発行所 武蔵野学院大学 佐々木隆研究室
〒350-1328
埼玉県狭山市広瀬台 3-26-1
Tel 04-2954-6131 (代表)
大学 <http://www.musashino.ac.jp>
個人 <http://www.ssk.econfn.com>